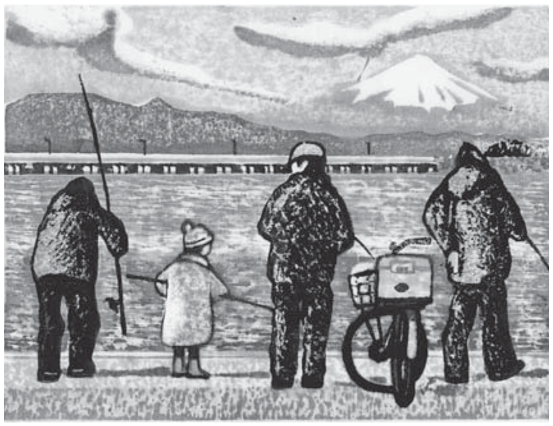
谷戸の風 ㊺

親の年齢

山内静夫


木版画　藤本宿

かかりつけの医者から入院と言われてベッドのまま運ばれる時、「もうこの家には戻って来ないよ」と自分で言う程頭のはっきりしていた数日後、そのまま病院で息を引き取った父。長寿とよく言われていたが九十四歳であった。私は来年六月には満で九十三になるが長生きという実感がまるでない。

父が亡くなった時、私は家の近くの焼鳥屋で病院からの知らせを落着かない気持で待っていた。父親を亡くすということの重さをどう受けとめるのかわからなかった。

おかげさまで健康でいるからか、時代が変わって人間の寿命が長くなったせいか、何れにせよ、世の中は確実に変わってきていると思わざるを得ない。人間の言語が特にそうである。私たちが子供の頃から使っている会話のやりとりと現代の若い人たちの会話の違いは、驚く程変っている。

大袈裟でなく、若い人の話は、半分以上解らない。時代が変わるとはどういう事なのか、元号が変わったりすれば誰にもよく解るのだろうが、日常の中では中々その変化を感じとれないものだ。

飛躍するようだが、人間が月にでも住むようになったりすればいやでも世界は変わったと感じるだろうが、地域戦争ぐらい起っても大した変化とは感じない。それだけ人間社会はマンネリ化してしまっているのかもしれない。東西冷戦時代のように社会の大きな力がぶつかりあっていたりすればまだしも、今は誰と誰が味方なのかわからないような時代だ、それを平和な時代とでも呼ぶのか、私はむしろ曖昧な時代とでも言いたい。

寄附で地域に潤いを

児童施設に5万円

鎌倉深沢商工クラブ

地域の商工業の振興に寄与する「鎌倉深沢商工クラブ（会員約80人）」の創立40周年記念式典が2月6日、鎌倉市内で行われ、鎌倉児童ホームに5万円が贈呈された。熊谷吉次会長は「今後も商工業者の親睦をはかり、地域に貢献していきたい」と抱負を語った。

俳句事業に5万円

鎌倉同人会

創立百年を超える市民団体「鎌倉同人会」は、文化事業への協力の一環で鎌倉市芸術文化振興財団が運営する「鎌倉俳句&ハイク」支援に5万円寄附した。2月12日、鎌倉文学館で、同会富岡理事長から財団森田理事長への贈呈式が行われた＝写真右。財団では市内の投句箱の修繕資金に充当し年間、約1万件を数える投句に対応するという。

市社協に30万円

三菱電機エンジニアリング

三菱電機エンジニアリング（本社・東京都千代田区）は2月8日、鎌倉市社会福祉協議会の福祉活動振興基金に30万円寄付した＝写真下。

同社の「MEE助け愛基金」事業の一環で、同社の事業所とメディアシステム事業所が半世紀以上鎌倉市内で製品開発・設計を行っていることへの感謝。

贈呈式で鎌倉事業所の中川雅博所長は「協力の機会を持てて喜ばしい。地域の連携、助け合いが重要と思う」と述べた。

文学つれづれ ⑮⑨

『翁と乙女（三）』

赤羽根龍夫

明治43年、柳田国男が35歳で日本の民族学の幕開けと云われる『遠野物語』を書いた時、彼はその序文で、

国内の山村にして遠野より更に物深き所には又無数の山神山人の伝説あるべし。願わくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ。

と勢い込んで書いている。そしてこんな本を出版することは自分の狭い趣味を他人に押しつけることだという人がいるかもしれないが、自分が遠野で聞いたような山神山人の話を人に語りたがらないような者がいるだろうか。少なくとも自分の友人の中にはそのような「沈黙にして且つ慎み深き人」はいないと断言する。

さらに、9百年前にすでに「今は昔…」と語り出した『今昔物語』に比べ、この書は現在の事実であると自負しながら、現代のようにすることの多い時代に、そんな小さな問題に力を用いるのは適当でないという人があったらどうしよう、また「明神の山のミミズクの如くあまりにその耳を尖らしあまりにその眼を丸くし過ぎたりと責むる人あらば如何。はて是非もなし」、その責任は自分が負わなければならないと言って、奇妙ともいえる歌で序文を締めくくるのである。

おきなさび飛ばず鳴かざる、をちかたの森のふくろう笑うらんかも

ここで柳田は、自分のたかぶった感情を、耳を尖らして眼を丸くしたミミズクだと戯画し、そんな自分を、遠くの森の中では飛びもせず鳴きもしないフクロウが翁らしい慎みでもって笑っているであろうというのである。やがて、35歳の若き柳田が抱いていた慎み深い世の尊敬を受けた老人像にその後の彼自身がなっていくのであり、その道程の中で前述の若者の犠牲になる老人というイメージを抱いたのである。

大嘗祭奉仕の柳田国男
（大正４年12月）＝「新潮日本文学アルバム」より

柳田国男の老人像の中には、沈黙、叡智、慎み、犠牲といった儒教的と云える内容があったのである。柳田民俗学における極度の性に対する沈默、慎み深さも、彼の老人像に由来していると考えてもよいであろう。

柳田が『遠野物語』を出版してから二十数年後、折口信夫は角川文庫版の同書に解説を書き、その中で序文に触れている。

『遠野物語』前記に見えた、高雅な孤独を感じせしめる反語は、二十何年前、私どもを極度に寂しがらせたものである。

眼を丸くしたミミズクと翁さびたフクロウとの対照を極度に寂しいと感じた折口信夫の心情がどんなものであったかは、短い解説の中ではうかがうべくもないが、折口は師、柳田その人に対し高雅な孤独を感じていたのではないか。柳田と折口との〝星の友情〟とも言うべき交流の中で決して触れ得ぬ一点は〝翁さび〟ということの解釈の中で生じてくるのである。

あえて触れていないが、柳田の慎み深い翁像に対し、折口の不満と反抗もそこに隠されていたのではないだろうか。

折口は柳田の『遠野物語』から4年後、すでに「翁の発生」という折口学の新しい出発点となった論文を書いている。この論文の初めに彼は二つの歌を引用する。

翁とてわびやは居らむ。草も　木も　栄ゆる時に、出でて舞いてむ
（続日本後記）

翁さび、人な咎めそ、狩衣、今日ばかりとぞ、鶴も鳴くなる
（古今集・伊勢物語）

柳田によるとこの歌に出てくる翁は、単に老人としての自覚ということではなく、舞踊を手段とする鎮魂式の中での舞人の長である翁が、翁舞を舞っているということであると言い、翁さびを神事の鎮魂の舞である翁舞と結びつけるのである。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日歌壇

香山静子　選

朗々と祭甚句は風に乗り寒中神輿海に入りゆく　片瀬　中村　喬

その場の情景が生き生きと伝わる。

寒き日は太陽を背に受けながら陽のストールにくるまり歩む　逗子市　湊　美根子

「陽のストール」という比喩が快い。

熱海湾の冬の花火はこだまする山を揺らして海を揺らして　笛田　入野　裕江

下句のリフレインが効果的である。

歌舞伎座で見かけし老女の帯揚の鹿子絞りの紅愛らしき　大船　小笹岐美子

列島に居座る寒気の腰おもく箒たてるも去る気配なし　辻堂　柳　蒼柳

年末の歌合戦には興味なくいよよ遥けしわが世の春は　笹目町　出蔵かおる

ひび割れに痛む指先庇ひつつ米を研ぎたり妻病みをれば　今泉台　下田　和夫

クルクルと鉛の空よりわが胸に雪訪ね来て淡く降り積む　葉山町　近藤美知子

寒肥をやる人には目もくれず梅が枝に寄る番の目白　七里ガ浜　嶋　尚久

梅林の古木に咲きし粉雪は匂ふまもなく露と消えたり　葉山町　近藤　純

待望の雨も二時間程で止み冬ならではの風ヒュルヒュルと　金沢区　岩澤　正春

鎌倉朝日俳壇

星野高士　選

〈天〉初雪にして降り積むる早さあり　逗子市　佐藤　信子

初雪の中の意外性をうまく捉えた。発想の飛躍がよし。

〈地〉立春の鎌倉野菜シェフの手に　川名　槇野あさ子

鎌倉野菜は今や高価なもの。立春が景気が良い季語だ。

〈人〉谷川の音の増しくる雪解水　大船　添田　洋子

谷川のささやかな音にも俊敏な作者。雪解の勢いが伝わってくる。

寒雀どっと群なし木から木へ　今泉　小林刀羊子

何と言っても調べと余韻のある作品。

転倒し手袋雪にまみれおり　城廻　塩田　文子

転倒には気を付けてもらいたいがこの一句を授かった。

大雪や街を狂わす迷い道　腰越　小河　哲美

今年の雪の凄さを物語っている。鎌倉をも狂わせた。

雪晴の峡滑かに鳶の笛　逗子市　塩谷あい子
囀に仰ぐや幸の兆しあり　小坪　犬丸　節子
連凧の空へ空へと由比ヶ浜　笹目町　出蔵かおる
溢る湯気鐘の音遠き初湯かな　腰越　松原　薫
初旅や遠嶺の山も肩を上ぐ　城廻　小美野京子
孫の手に支へられつつ冬の町　腰越　大川　昭子
蠟梅や仄かな香り漂わせ　手広　高口　道宏
春めくや子の立ち寄りてピアノの音　笛田　清田　都
昼紅梅夜は白梅の道標　玉縄　篠田　祥子
保育園の寒暮のこれる子の視線　常盤　片岡　和子
一人居の夜を取り巻く雪のこゑ　金沢区　岩澤　正春
紅梅の蕾ほつほつ朝日和　腰越　松原　薫
風花を鳶も愛でつつゆるり舞ひ　七里ガ浜　嶋　尚久
着ぶくれの一団に入り突入す　材木座　羽賀　一男

ganso かまくらカスター
鎌倉みやげ ニュージャーマン
雪ノ下本店　逗子店
鎌倉駅前本館（かの鎌倉）
ルミネウィング（大船）店

八幡宮前・蒲焼専門店
う ちぎ
茅木家
☎（22）1460

まちのお弁当屋さんをめざして！
卒業シーズン、新たな世界が待っています
頑張ってるあなたにご褒美を！
特上洋風弁当　1300円
手づくり弁当 バニー
ご注文はこちら
イイハハ
TEL:0467-22-1188
鎌倉市材木座6-5-26
営業時間/8:00～17:00
【年中無休】（木曜/16時まで）

鎌倉朝日発刊協力グループ
朝日新聞サービスアンカー
ASA鎌倉小町　大町一－一－四　☎22－3236
ASA鎌倉中央　長谷一－一－九　☎22－1004
ASA北鎌倉　大船二－二－一六松栄ビル3F　☎38－7322
ASA鎌倉深沢　常盤二四七－二　☎31－1444
ASA大船西部　玉縄一－四－一　☎46－6068
ASA大船南部　大船二－二－一六松栄ビル3F　☎38－7322
ASA大船中央　大船二－二－一六松栄ビル3F　☎38－7322
ASA腰越　藤沢市鵠沼藤が谷二－一－三　☎0466－27－8716
ASA藤沢南部　藤沢市鵠沼藤が谷二－一－三　☎0466－27－8716
ASA藤沢東部　藤沢市弥勒寺三－三－一　☎0466－22－7409
ASA鵠沼東部　藤沢市鵠沼海岸二－一－一　☎0466－34－6924
ASA鵠沼西部　藤沢市鵠沼海岸二－一－一　☎0466－34－6924
ASA逗子　逗子市久木一－一－一　☎046－871－2368
ASA東逗子　逗子市沼間一－四－四　☎046－871－6845
ASA葉山　三浦郡葉山町堀内一八〇八　☎046－875－0515
ASA金沢八景　横浜市金沢区六浦一－二一－一三　☎045－782－2859
ASA大船北部　横浜市栄区笠間四－一－九　☎045－891－0986